

# PTAだより

第114号  
平成27年3月1日

編集発行  
岐阜県立各務原高等学校  
PTA  
印刷 株式会社 岐阜文芸社



▲ センター試験 岐阜大学にて

## 人間力のある人に



PTA会長  
樋谷 清美

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとございます。

今、皆さんは間もなく迎える新生活に対する夢や希望、期待や不安でいっぱいのご様子でしょう。三年前を思い出し、試してみてください。入学式の日に各務原高校の門をくぐったとき、どんな感情を抱きましたか？そして、三年経った今、三年間を振り返ってみてどんな感情を抱いていますか？三年前に抱いた不安は知らないうちに消え去り、毎日が夢や希望に満ち溢れていたのではないのでしょうか。三年間、勉強や部活動を頑張り抜いたその根性と努力はこれからの人生の大きな支えとなることでしょう。これまでの人生は家族や友達、先生方など多くの方々を支えられながら生きてきたと思います。これからは長い人生を自分で切り開いていかなければなりません。その人生をより良いものとするために人間力を高めてください。様々な

なことを学び、それを実行し、成果を出す力、対人関係を円滑にし、社会で上手に生きていく力、意欲的に物事に当たり困難に打ち勝つ力など様々な面で力をつけてください。失敗を恐れず物事に挑戦する気持ちを持ち続けてください。失敗は次へと繋がる最高の糧となります。大小問わず常に夢を持っていれば、必ずとそれに向かい努力し、必ず夢は叶います。そして、人を大切に出来る思いやりのある優しい人になってください。人間的に魅力のある人の周りには人が集まり、困難に直面したときに誰かが手を差し伸べてくれます。

最後になりますが、健康な心身を保てるよう心掛けてください。各務原高校卒業生の皆さんに幸多からんことを祈ってやみません。

そして、卒業生の保護者の皆様、本当におめでとうございませす。心よりお喜び申し上げます。また、三年間PTA活動にご理解とご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

さて、在校生の皆さんは残された高校生活を悔いのないものにするために何事にも全力で挑戦してください。保護者の皆様にはこれまでと変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 君の夢を実現しよう！

(リーフレットよ)

校長 杉原 整

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。卒業という節目を迎えたお子様の姿に感慨もひとしおと思います。また三年間、本校の教育方針、教育活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年十二月に配付させていただきましたリーフレットの中で、本校の特長をまとめました。校訓「開拓者精神 創造・挑戦・協同」のもと、生徒の皆さんは学習はもちろん、生徒会活動や部活動、さらにはボランティア活動とその活躍の場を広げています。生徒会活動では、中央ライフデザインセンター「文化発表会」への参加や「ゼロスマカフェ」の取組が始まりました。四つの強化部に代表される「各務原らしさ」は、弓道部やバレーボール部、ハンドボール部や吹奏楽部へと広がりをを見せています。一流の指導者を紹介いただき、一流のご指導いただくことで、ハンドボール部や吹奏楽部の生徒達も高



▲剣道部

い目標を持って練習に励んでいます。強化部に負けない部活動に育っていくことでしよう。

英語科の授業改善の取り組み「岐阜県英語教育イノベーション戦略事業」も一年を経過しようとしています。大分県教育委員会や福井県から視察もあり、期待通りの成果を挙げると同時に、更なる向上を目指して日々努力しています。理科の取り組みもこれまで以上に充実し、地域への広がりも見せようとしています。これらすべては、生徒の「頑張りたい」という思いを受け止め、生徒達の夢の実現に向けて確実な一歩を保証していくPTAの皆様のご尽力の賜物と大変感謝しております。「ふれあいバス」が、本年十月より登下校に利用できるようになることはその典型です。PTAの皆様が生徒の願いを各務原市に届けていただいたからこそ実現したことです。本当に感謝しております。

「各務原高校で君の夢を実現しよう」というリーフレットの内容は、在校生だけのものではありません。卒業していく皆さんへのメッセージでもあります。高校生活の夢の実現は、次なるステージでの更なる夢や希望の実現につながっていきます。「一人で見える夢はただの夢。みんなで見る夢は現実になる。」という言葉があります。ここ各務原高校で培った「各務原らしさ」と「コミュニケーション能力」を発揮し、次世代をたくましくさわやかに担う人材へと成長してくださることを期待しています。私たち職員も、卒業生の皆さんが、巣立つ

ていく社会で夢が実現できるよう、精一杯応援してまいります。

最後に、保護者の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。



▲野球部

## 生徒指導の成果と今後の課題

生徒指導主事 岩井 浩光

本年度の生徒指導に関する報告をします。本年度も昨年に引き続き、三つの柱として、①基本的生活習慣の定着、②生命の尊重、③規範意識の高揚を掲げて取り組んできました。

まず遅刻については、一月末現在、一日平均の遅刻者が約四人です。昨年は一日平均六人でしたので、二人分減少しています。これは、御家庭での生活状況がよく、それに加えて保護者の皆様からの励ましによるところが大きいかと思えます。引き続きよい状況を保ち、より一層高校生活が充実したものとなるように願っています。また、学校への自家用車

での送迎についても、保護者の皆様に御理解いただき、ルールが定着し、雨天時にもそれ程の混乱はありません。心より感謝申し上げますと同時に、今後も一層の御協力をお願いします。

次に、通学状況ですが、校門付近での登校風景はとも改善されました。並列進行や雨の日の傘さし運転もほとんどなくなりました。しかし、交通事故は残念ながら昨年度より増加し、とても心配しています。出会い頭での衝突が多く、幸い大事には至っていませんが、一歩間違えば命に関わるケースもありました。不注意をなくすることは当然のことながら、ドライバーとアイコンタクトをして通行するなど、常に細心の注意をすることが必要です。御家庭の方でも、繰り返し御指導ください。

校内生活については、運動系部活動の生徒を中心に率先して挨拶をしてくれ、その影響が全体に広がり、挨拶がしっかりとできる各務原高校になっています。貴重品ロッカーの使用も定着し、盗難・紛失が減少しました。それに伴い、携帯電話の使用についても、始業から終礼まで使用せず、本来の使用目的以外の使用(例えばゲームをするための使用)は見受けられなくなりました。しかし、身だしなみについて繰り返し注意を受けたり、情報モラルについて指導が必要なケースがありました。常識的な行動を身につけ、さらにマナーやモラルがよくなるように願っています。今後も保護者の皆様に御協力を依頼すると思いますが、その折にはよろしく願います。

# 三年間の回顧

## 「卒業の際について」



三年学年主任  
浅見 和人

「卒業おめでとう」が溢れます。

三年前本校の入試合発表表に雀躍し、新しい意欲に満ちた若者達が、本校の課程を無事修了し、今日めでたく卒業なされます。保護者の方々にはごぞかし感慨深いものがあると存じます。私も心からうれしくお祝いを申し上げます。然し高校卒業の際の「おめでとう」とい言葉は、すべてを成し遂げたという意味の祝福ではなく、むしろ新しい出発にあたっての檄であると思います。これからの将来には幾多の試練が待ち受けています。前進どころか風雨強く、ある時は一歩後退して時節をうかがうこともあるでしょう。また立ち向かっていく機微と行動と勇気も必要です。そこに物事に対処し順応する判断や分別が生まれますが、一朝一夕にして身に付くものではありません。良き人生の先輩から学び、自ら自覚して成功と失敗を積み重ねて創り上げていくことになりませう。

本校入学以来、卒業生諸君は先輩達の姿から様々なことを学び、今年度は最上

級生として後輩達を導き学校祭、球技大会を成功させてくれました。また部活動等、学校生活のあらゆる面でリーダーシップを発揮してくれました。進路選択の時期になって、面接練習・小論文に取り組み姿、入試にむけてひたむきに学ぶ姿が見られました。この経験を生かして不撓不屈の精神で一人一人が豊かな人生を創造してくれることと確信しています。

最後に卒業される四十二期生の方々の今後のご活躍と、保護者の方々の益々のご多幸をお祈り申し上げます。

## 「三年間を振り返って」

PTA副会長 大堀 直樹

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。

早いもので、息子の入学が決まると同時にPTAのお話を頂き、お受けしてから三年間が終わろうとしています。私にはPTA活動が初めてのことで、先輩会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様、歴代校長先生、諸先生方、関係者方にご指導いただき、さらには今年、副会長という立場で、活気のある活動が出来たことに深く感謝いたします。

PTA役員の方々には、何回もの役員会・行事とお忙しい中、お時間を作っていただき会議が出来たこと、その中で子供の近況が話し合えたことなど、本当にありがとうございました。

PTA活動を振り返ると、四月の総会での緊張した報告に始まり、その後の

ホームルーム委員会の司会、生徒の笑顔に癒されたあいさつ運動、今何を求められているのか悩んだ校外研修、文化祭での超大盛りカレーライス販売、汗水たらした学校をきれいにする日、などの行事や活動があり、保護者、生徒、先生方と手を取り合っつてより良い活動が出来たのではないかと思っています。

各務原高校の伝統である「文武両道」で、三年間学び成長できたのは、やればできると、日々の先生方のご指導があったことだと感謝いたします。

最後になりました

たが、保護者の皆様、各務原高校PTA活動にご支援・ご協力頂けたことに厚くお礼申し上げます。引き続き一年生・二年生の保護者の皆様には、ご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。



▲あいさつ運動

## 「学校生活を振り返って」



三年四組  
佐村 京華

私は各務原高校に入学してからの三年間で多くのことを学び、経験し、自分の

進みたい路を見付けることができませう。またその経験などから人として大きく成長することができたと思います。

三年前、まだ自分が将来やりたいことが決まっておらず漠然とした不安を抱えていた私は、自分がやりたいことが見付かった時にそれができないということにならないように今の自分出来ることはしようという思いで学校生活を送っていました。その中で多くの先生、先輩、後輩と関わり、人として成長し、自分の将来の夢も見つけることができました。

自分の夢を見付けられたのは私を成長させてくれた周りの人達のお蔭とも言え、夢を叶える為に大学の紹介や小論文指導をしてくださった先生達にも感謝しもしきれません。

この三年間は多くの人に助けられ、支えられた三年間だったと思います。本当にありがとうございました。



▲文化祭



▲体育祭

沖

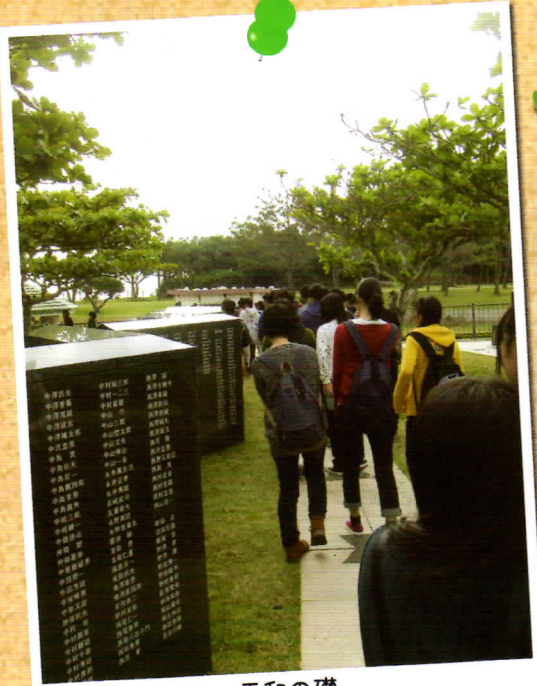
縄

修

学

旅

行



平和の礎



ひめゆりの塔



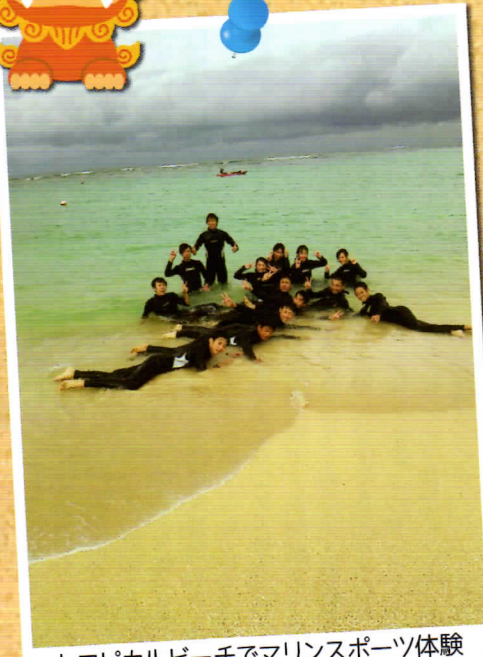
十二月九日から十二日まで、二年生は沖縄修学旅行に行ってきました。沖縄は、気候も暖かく、出会う人々も温かく接してくれる、素敵な場所でした。天候にも恵まれ、前半の二日間は好天の下、後半は、曇りましたがほとんど雨にも降られることなく、予定通りの研修ができました。

初日は、首里城見学と国際通り研修でした。首里城では、本土の城とは異なる作りや色彩を見学し、国際通りでは、早速お土産を選んでいました。沖縄の人たちの明るく、積極的な接客に驚く生徒もいました。A・C団は中城のホテルに、B団は那覇市内のホテルに宿泊しました。

二日目は、平和研修を行いました。「ひめゆりの塔・資料館」「平和祈念公園」「糸数壕」を見学しました。唯一の地上戦となった沖縄戦の資料を目の当たりにし、真つ暗な壕で、当時の生活の追体験をすることで、生徒たちは、事前学習だけでは気付くことのできなかった戦争の悲惨さを改めて感じていました。また、ホテルに戻ってから、「鉄血勤皇隊」として参戦した長田さんの話をB団が、つらい戦後を過ごした長田さんの弟さんの話をA・C団が、平和講話として聴きました。全員が、最初から最後まで本当に真剣な態度で話を聴き、涙ぐむ生徒の姿も見受けられました。

三日目は、班別タクシー研修を行いました。気の良い運転手さんたちの案内の元、事前に計画した景勝地や施設、ビーチなどを回り、沖縄の文化や自然を満喫しました。八十名以上の生徒たちがマリンスポーツを体験し、ドラゴンボートやシュノーケリング、カヤックなどを楽しみました。また、この日は、学年全員が恩納村の同じホテルに宿泊することになり、夕方にはプライベートビーチで、美しい海をバックに写真を撮ったり、ビーチフラッグをしたりと楽しみました。

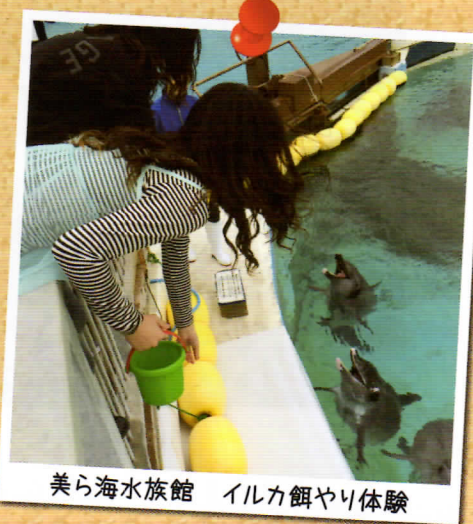
最終日は美ら海水族館を見学しました。たいへん混雑した日でしたが、目当てのジンベエザメやウミガメ、マナティなどを



トロピカルビーチでマリンスポーツ体験



平和講習 長田さんにお礼の言葉



美ら海水族館 イルカ餌やり体験

以下は、修学旅行アンケートで寄せられた生徒たちの感想の一部です。

- 首里城では、歴史的建造物を間近に見られて、勉強になった。
- 国際通りではお土産をたくさん見られたが、時間が少なかった。
- 南部平和学習は時間が短く、しっかりと見られない所があったが、実際に行ってみて改めて分かることが多く、今ある平和の幸せを再確認できた。
- 実際に体験された方から戦争体験講話を聞くことができ、当時のことがよく分かった。
- 美ら海水族館では色々な魚を見ることができ感動したが、時間が短く、人が多すぎた。
- バスガイドさんは知識豊富でたくさんのことを教えてくれた。歌も上手で優しくおもしろかった。
- タクシー研修では、運転手さんがおもしろかったし、優しく案内してくれ、良い話も聞いた。
- マリンスポーツは、言葉では言い表せないほどエキサイティングだった。沖縄でこれをやらなきゃ沖縄に来た意味がない!

見ることができました。理科科はその後、「イノー体験」を行い、浅瀬の生物を観察しました。  
 異なった文化を体験し、空港やホテル、公共の場所でのマナーを考えながらの四日間でした。そのような集団行動で得たものは、平和を見つめなおし、沖縄の人々の明るさや美しい自然に触れ、仲間たちの新たな面を知る、とても大きな経験になったと感じました。  
 大きな事故やけがもなく、全員が時間を守り、仲間と協力し合い、各務原高校生としての自覚をもって行動することができました。

# 進路結果速報

進路指導主事 森下 範子

推薦入試・AO入試・就職試験などの合格状況(二月二十三日現在)をお知らせします。在校生のみなさんもこの合格結果を励みに、進路目標達成のために頑張ってください。

## 【国立大学】

香川大学(1)  
都留文科大学(1)

## 【私立大学】

駒澤大(1)・拓殖大(1)・日本大(1)・明治大(2)・福井工大(2)・朝日大(3)・岐阜経大(2)・岐阜女子大(3)・岐阜聖徳学園大(3)・東海学院大(1)・中部学院大(5)・岐阜医療科学大(6)・愛知大(1)・愛知学院大(15)・愛知工業大(1)・愛知淑徳大(5)・愛知東邦大(2)・金城学院大(4)・椋山女学園大(3)・大同大(4)・中京大(13)・中部大(14)・東海学園大(2)・名古屋外大(7)・名古屋学院大(5)・名古屋学芸大(2)・名古屋経大(2)・名古屋芸術大(3)・名古屋造形大(1)・名古屋文理大(2)・南山大(2)・日本福祉大(3)・名城大(14)・鈴鹿医療科学大(1)・長浜バイオ大(1)・京都外大(1)・関西大(1)・阪南大(1)

## 【短期大学】

岐阜市立女短(4)・大垣女短(4)・岐阜聖徳学園短(6)・岐阜保健短(2)・中部学院大短(2)・東海学院大短(2)・平成医療短(4)・愛知医療学院短(1)・愛知学泉短(1)・愛知さわみ看護短(1)・愛知江南短(1)・至学館大短(1)・修文大短(3)・名古屋短(1)・名古屋文化短(1)・名古屋文理大短(2)・南山大短(1)

## 【専門学校】

岐阜県立衛生専(2)・岐阜県立下呂看護専(1)・岐阜市立看護専(1)・朝日大歯科衛生専(5)・愛知調理専(1)・愛北看護専(1)・あじさい看護専(2)・大原簿記医療観光専(2)・中部美容専(4)・東海医療工学専(1)・トヨタ自動車大学校(3)・トリアデントコンピュータ専(2)・中日本航空専(1)・名古屋栄養専(1)・名古屋観光専(1)・名古屋ゲームデザイン学院(1)・名古屋コミュニケーションアート専(1)・名古屋デザイン学院(2)・名古屋ビューティアート専(1)・名古屋美容専(1)・名古屋リゾート&スポーツ専(1)・名古屋ビジュアルアート専(1)・名古屋スクールオブビジネス専(1)・名古屋観光専(1)・名古屋フライダルビューティ専(2)・名古屋ウェディング&フライダル専(1)・名古屋モード学園(1)・トライデントスポーツ医療看護専(1)・辻調理専(1)

## 【就職】

岐阜県警(2)・陸上自衛官(1)・消防職員(1)・中部電力(1)・山内ホスピタル(1)



# 退職教師からのメッセージ

「期待しています」



山川 隆

いつの時代も大人にとって若者は幼稚で愚かに思われています。古代エジプトのパピルスにも「今の若者は何だ」という言葉が書かれています。

私の高校生の頃だと、「無責任」「無気力」「無関心」の三無主義でドライブでけしからんと嘆かれました。

そういう大人もかなり当てにならないこともありました。そのころ、石油の埋蔵量は後四十年で、その後は原子力・核融合と真剣に考えられていました。まずは日本列島改造、否その前に「日本沈没」で太平洋プレートに引きずられて沈むなら勉強なんかしないというものも現れたりしました。激動の七十年代、先の見えない不確実性の時代と言われました。ノストラダムスの大予言によれば、空から恐怖の大王が現れ地球が破滅するから西暦二〇〇〇年が本当に来るかとか心配しました。

今は、先が見えない時代と言われています。しかし、安泰で透明な未来がある時代などありません。困難も人類の努力と工夫で何とかなっています。きっと君たちの知恵でIP SやLEDを超える発見や発明もあることと期待しています。私たち定年退職するものの年金や医療、福祉は君たちにかかっています。幸せな社会をつくっていきましょう。

最後に、伊達に歳ばかりとり、いたらない私が三十八年間勤務できたのも皆さんのお陰と感謝しております。ありがとうございました。

# 「未来を切り開く」



山田 英実

「若者は未来を見つめ、老人は過去を振り返る」のが世の常であります。退職を控えて六十歳を過ぎると、どうしても「昔は良かった」とか、「もう五歳若かったら」とか思ってしまう。そんな自分を見つめ、歳をとったなあと自覚するこの頃です。

岐阜インターハイが開催された年、私が四十五歳の時に胃癌を患い、手術をしましたが、健康を教える立場なのに、保健体育教師失格だなあと自戒しました。インターハイのスローガンは「切り開け岐阜から未来のページ」でした。このスローガンどおり、腹を切り開き、そこから自分の生活も考え方も変わっていったと思います。自分の能力以上の仕事は長続きしないこと、健康は損なう前に対処すること、不健康になつてからは遅過ぎるといふことです。頑張り過ぎて体を壊したら、かえって周りの人に迷惑をかけてしまうことも学びました。「今日やることは今日やれ」という考え方で頑張ってきましたが、「明日やれることは明日やれ」ということも大切な訓えだと理解しました。

さて、手術をして療養をしている時に、退職された先輩の先生が見舞いに訪れてくださいました。腹が痛くて仕方ない私に笑いながら「手術してショックを受けたと思うが、六十歳からが人生で一番おもしろいぞ、落胆せずにゆっくり回復に努めなさい」といわれました。この「六十歳過ぎの生活が、人生で一番おもしろい」という言葉で、どれだけ勇気づけられたか分かりませんが、皆さんも悩み多き時期で大変だと思いますが、過去ばかり振り返らず、未来を見つめて、六十過ぎに楽しい人生があることを信じて苦難を乗り越えていってほしいと思います。私もこれからが一番楽しい人生になるよう一日一日を大切に生きていきたいと思っています。

# 師・弟(子)・親の トライアングルメッセージ ラグビー部



ラグビー部監督  
吉田 英生

平成二十六年十一月十六日(日) 全国高校ラグビー岐阜県予選準決勝にて、岐阜工業高校に残り数秒、五点差を守りきれずに怜於組の力は尽きた。奇しくも一年前の新チーム発足時、十一月二十三日(日) 決勝戦に於いて、十九対十四で関商工高校に勝ち、全国大会出場を決め、自分たちを支えていただいた皆さんと涙を流す、という具体的な目標を掲げ、最後の最後まで各務原らしく、挑み続けた結果が、目標を達成できず、終了のホイッスルを聞きました。目標達成ができなかったのは、すべて監督である吉田の責任です。部員達は本当に最後の最後まで、すばらしい漢(おとこ)であったと確信しています。

怜於組は私がコーチ時代も含めて携わった各務原高校ラグビー部十六年で最弱だという認識がありました。「ポトムアップ」。サッカー部も数年前からこの考えのもと、選手が主体的に部の目標だけでなく、方針、メニューなどを考え、自ら実践していくことにラグビー部も本格的に取り組み、徹底してきました。自分たちで考え徹底していくことは主体性のみならず、責任がともないます。東海総体に二十三年ぶりに出場するなどの歴史をつくったことは誇らしいことです。そして、戦績以上にもがき苦しみながら、そして、叱咤激励されながらも、「羈(まっしぐら)」「に何事にも挑戦し続けたことを誇りに思います。」



ラグビー部キャプテン  
武仲 怜於

「全国大会出場」という目標を決め、新チームがスタートしました。県新人戦第三位、県総体準優勝。今年のチームはとても身体が小さく、飛び抜けたプレーヤーがいませんでした。今年から、自分たちでメニューを考えるポトムアップが始まりました。分らないことが多く、先生方に叱咤激励されながらも、何とかキャプテンの大役をやり遂げることができ、本当に良い経験になりました。

ラグビー部に入部してからの三年間は僕にとって、人生の宝物です。全国大会に出場したい、みんなとずっと笑っていたい、喜びを分かち合いたい、先生や親をはじめとする関係者の皆さんに恩返ししたい気持ちで取り組むことができました。全国大会予選は惜しくも準決勝で最後の最後に力尽きてしまいましたが、県内一愛されたチームだと思っています。三年間熱い気持ちを持ち続け、ご指導いただいた吉田先生、尾下先生、コーチングスタッフの皆さん、朝早くからお弁当を作ってくれた母親、心が折れそうになつたときにもそっと包んでくれた父親に感謝の気持ちでいっぱいです。「各務原らしさ」この言葉が三年間で成長できた証だと確信しています。



ラグビー部保護者会  
会長 櫻林 晃

思い起こせば三年前の四月に「ラグビー部に入部したい」と息子に言われ、貴重な高校生活でスポーツをするのはいいことだと思い軽く賛成しました。三年生部員十一名のほとんどが初心者であり、その保護者たちもそんな思いであったと思います。しかしそれは日を追うごとに、また年を追うごとに変化していきました。夏の暑い日や冬の寒い日でも朝早くから夜遅くまでの厳しい練習、思いもよらない大きな怪我、そして各務原高校ラグビー部の先輩方が築いてきた実績へのプレッシャー。ただ身体を大きくするだけでは闘えないと思い知らされました。

しかし、だからこそ生まれた「仲間の絆」仲間同士が「花園出場」という同じ目標に向かい泣いたり、苦しんだり、喜んだり、励ましたり、笑ったり、私が生きてきた人生の中でもこのような経験はありませんでした。こんなに素晴らしい経験をしてきた三年生部員、そして今後いくつもの感動が待っているであろう二年生、一年生の部員たち、皆さんで新しい各務原高校ラグビー部の歴史を作っていくて下さい。最後になりましたが、とてもお世話になった先生やコーチの方々、試合の際には送迎をして熱い応援を下された保護者の皆様、最後の花園予選には校長先生や教頭先生、諸先生方、サッカー部をはじめ大勢の生徒の皆さん、たくさんの応援本当にありがとございます。そして貴重な経験をさせてくれたラグビーに感謝します。

# 部活動回顧

特別活動部 山田 英実

ここ四年間の本校部活動加入の状況を見てみると、平成二十四年度の七十六・六％が最も多く、他の三年間は七十二％付近の加入率である。全校生徒の約四分の一の生徒が部活動に加入していない状況だ。学年を追う毎に加入率は減少し、三年生では七十％を切った。男女別では、男子の七十五・二％、女子の六十九・九％が部活動に参加している。体育系・文化系の比率は体育系に七十四・九％が加入し、文化系は二十五・一％と少ない。平成二十七年一月の時点での加入率は七十・五％と落ち込んでいる。部活動全員加入制ではない状況で、この加入率は高いといえる。部活動は体力の向上や限界への挑戦、大会での優秀な成績の追求といった内容があるが、それだけではなく、コミュニケーション能力を身につける場でもあり、社会貢献できる人間づくりの場でもある。朝早くから登校しての練習やグラウンドの草引き、活動場所や部室の清掃、さらにトイレ掃除など学校の活性化や環境美化にまで貢献している。何よりも元氣な挨拶は、学校のまとまりのバロメーターだ。元氣な挨拶は部活動の所属意識から学校への所属、さらには、地域社会の二員といった意識に拡大していくべきだ。しかしながら、部活動と学習の両立は、□で言うほど簡単ではない。部活動で得た体力や集中力を他の活動に生かしてこそ、部活の意義があると思う。

来年度はより多くの生徒が部活動に参加し、三年間継続する人が増え、笑顔と感動の涙を流しながら卒業していく素晴らしい伝統が受け継がれていくことを願って、本年度の部活動の回顧とします。本年度の主な成績を左記に示しました。今年も多くの活躍がみられました。これらの努力を誇りに思うと同時に心から賞賛の拍手を送りたいと思います。おめでとうございました。

※主な記録

## 【サッカー部】

- 第五十九回全国・第六十二回 東海高校総体岐阜県予選 三位
- 第九十三回全国高校サッカー選手権 岐阜県大会 三位
- 平成二十六年年度岐阜県高校サッカー新人大会 優勝
- 平成二十六年年度岐阜地区高校総体 優勝



## 【ラグビー部】

- 第六十一回東海高校総体 出場
- 第五十九回全国・第六十二回 東海高校総体岐阜県予選 二位
- 第九十四回全国高校ラグビーフットボール大会岐阜県大会 三位
- 平成二十六年年度岐阜地区高校総体 優勝

## 【弓道部】

- 第五十九回全国高校総体 女子個人 出場 橋本佳奈
- 第六十一回東海高校総体 女子個人 四位 橋本佳奈
- 男子団体 出場
- 女子団体 出場
- 男子個人 出場 田村昌士
- 第五十九回全国高校総体岐阜県予選会 男子団体 二位
- 女子団体 三位
- 男子個人 三位 田村昌士
- 女子個人 二位 橋本佳奈
- 第三十三回全国高校選抜大会岐阜県予選 男子個人 優勝 村松利規
- 平成二十六年年度玉竜旗高校剣道大会

- 男子団体 五人抜き 堀光希

## 【囲碁部】

- 第二十八回全国高校囲碁選手権大会 岐阜県大会 男子団体 二位
- 女子団体 二位
- 女子個人 二位 田中陽向
- 県高校総合文化祭囲碁新人大会 女子団体 二位

## 【吹奏楽部】

- 第二十七回中部日本個人・重奏コンテスト岐阜県大会 アルトサクソス個人 金賞 岩田基睦
- 岐阜県代表として本大会に出場
- 三月二十九日キッセイ文化ホール (長野県松本市)

## 10月より通学がより便利になります

広報渉外部長 石原 弘也

- ・ふれあいバス 各務原高校前のバス停設置!
- ・大幅な、ふれあいバス路線の拡大、延伸、ダイヤの改正!



具体的には…

- 学校近くに、各務原高校前(仮称)のバス停が設置されます!
- 路線の増加(東西線 鷺沼・尾崎団地間)で通学がより便利に! ハブ化(グリーンスタジアム・市民会館・市役所)で乗り継ぎも可能!
- アユカ、乗り継ぎ割引等の利用でより安価になります!
- 始業時間、放課後にピッタリのダイヤが作られます!

ここ数年、各務原市内の中学生が岐阜市内へ流出するなどの理由で、受験する中学生が減少しています。そのため、中学生や保護者の方々、地域の方々に各務原高校の魅力を伝えるとともに、通学等の環境の整備に取り組んできました。その中で、通学に関して生徒や保護者の方の負担を軽減させるべく、時間がかからず安価な交通手段を提供できないか、また雨の日等の保護者の自家用車での送迎の負担を減らすことはできないものかと考え、7月にPTAと学校で各務原市へバスの運行に関し要望の文書を提出しました。

昨年11月に各務原市役所産業活力課から回答があり、今年10月よりふれあいバスの大幅な見直しが決まり、各務原高校の生徒にとって便利になります。

是非とも積極的にふれあいバスを利用していただくとともに、マナーやモラルを守るのももちろん、各務原市民、特に高齢者の方々に各務原高校の生徒が、元氣や活力を与えてほしいものです。